

令和元年(2019年)11月17日(日曜日)

改修中河川 在来種を移植 グラウンドワーク三島など



河川での作業に取り組み参加者
三島市内

三島市のNPO法人「保護スペース」がグラウンドワーク(GW)三島は16日、官民連携の水辺環境保全活動「植生移植ワンデイチャレンジ」を同市と清水町の間を流れる境川で実施した。

GW三島の渡辺豊博専務理事(69)は「非常に貴重な森と水辺の空間を守ろうと取り組んだ。地域が一体となつて行う自然河川づくりの第一歩だと思つ」と話した。

県沼津土木事務所による河川改修工事に合わせて行われた取り組み。県や市、施工業者の加和太建設(同市)の職員、地域住民ら35人が参加。河川約200㍍に自生するミシマバイカモやミクリ、ヒメミクリなど希少な在来種9種類を採取し、川沿いに設けた

保護スペースに移植した。保護した植物は工事が終了する2月ごろ、土手に定植する予定。